

柵池ノルディック 50周年記念大会!!



雪不足で開催が心配されましたが
みなさんのご協力で 元気にスタート!

28年度予算の可決……………②～③

村長提出議案・請願・陳情の審査・議員発議・臨時議会など……………④～⑤

総務・経済・議員定数等調査特別委員会活動報告……………⑥

一般質問「介護予防と日常生活支援の充実」など村政を問う……………⑦～⑬

わたしのひとこと(猪又 由香さん・横澤 美界さん)……………⑭

総合戦略 2億6,500万円

可決 (前年度比 4.7%増)

【新規事業】 2億2,850万円

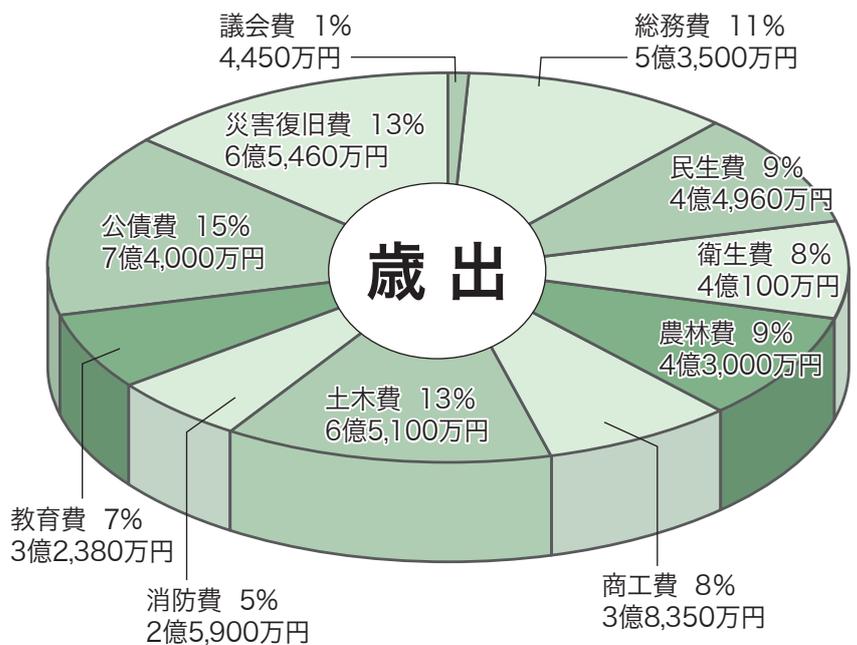
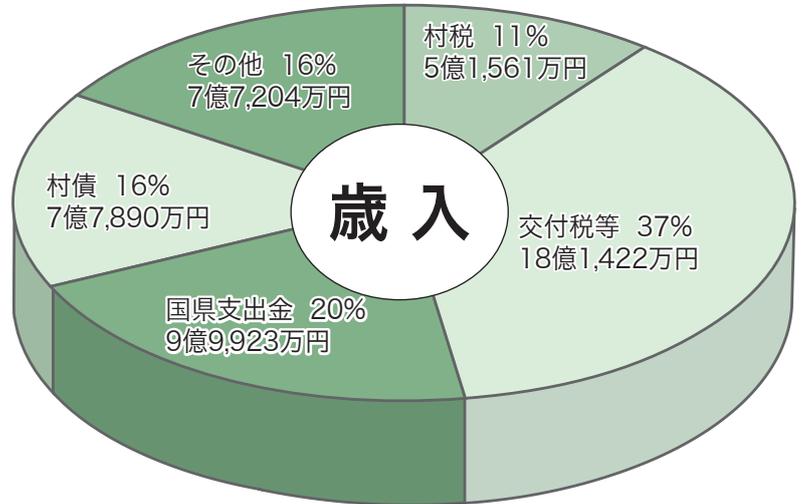
主な事業

● 指定避難所建設等事業	3,800万円
● 県衛星行政無線施設更新	880万円
● 防火水槽等新設	700万円
● 児童デイサービス (若竹寮)	1,800万円
● レントゲン等更新整備	300万円
● 公衆トイレ等新築	210万円
● 農業近代化 (トラクター等購入)	1,400万円
● 除雪ロータリー等購入	5,200万円
● 村道舗装改良	4,000万円
● トンネル補修等事業	1,000万円
● 橋梁補修等事業	2,500万円
● 陸橋改良等事業	600万円

【継続事業】 5億4,250万円

主な事業

● 第1分団消防施設建設等	4,750万円
● 広域ごみ処理施設負担金	1億7,584万円
● ビジターセンター改修等	1億2,500万円
● 林道改良事業	4,480万円
● 中山間直接支払い事業	3,430万円
● 中山間地域総合整備事業	4,500万円
● 村道改良事業	4,000万円
● 東橋改修事業	3,000万円



28年度予算に対する主な質疑・説明等

問・説明事項	回答・説明
● お試し住宅の管理は誰がやるのか。	◆ 地域おこし協力隊が行う。土倉に総合窓口を設置する。
● 村づくり補助金の要望は変わらないか。	◆ 毎年多い。人件費等、使いやすい内容を検討予定。
● 障がい者福祉施設の工事費は。	◆ 若竹寮を改修。障がい児放課後施設に整備する。
● 小さな拠点づくり、福祉輸送は。	◆ 制度、システムも含め検討する。
● 婚活イベント、村内主体で実施を。	◆ 村内若者の参加が少なく、運営が難しい。
● 定住促進、Uターンの窓口は。	◆ Uターンは住民係、Iターンは企画財政係へ。
● アシスト自転車の購入台数は。	◆ 20台。道の駅、サンティン、柵池に配置予定。
● 起業支援事業、ハードルが高くないか。	◆ 最長5年間支援があり、手厚い事業になっている。
● 公共交通費、予算が増えている。	◆ 運用の効率が良くない。検討が必要。

震災関連 6億5,400万円

平成28年度一般会計予算 48億8,000万円

28年度一般会計の予算審議は、予算特別委員会（選任：藤原委員長、高橋副委員長）を設け、全議員で審議し本会議で全員賛成で可決されました。

神城断層地震復興関連事業 6億5,440万円

主な事業

●被災住宅等改修事業補助金	390万円	●耕地補助災害復旧工事	5億3,150万円
●耕地地震災害復旧事業	830万円	●林道補助災害復旧工事	7,960万円
●林道単独災害復旧工事	300万円	●村道地震災害復旧	2,560万円

総合戦略関連事業 2億6,530万円

主な事業

●自然エネルギー活用事業	110万円	●ふるさと応援寄付事業	1億4,800万円
●小さな拠点構築	1,030万円	●友好都市交流事業	240万円
●おたりのわ運営事業	110万円	●むらづくり補助金	250万円
●危険廃屋解体撤去	400万円	●移住促進事業	2,880万円
●配食サービス事業	150万円	●乳幼児高齢者予防接種経費	650万円
●若者ふれあい事業	180万円	●出産祝い金事業	300万円
●定住促進事業	500万円	●無線LAN環境整備補助金	150万円
●起業支援事業	100万円	●小谷型畑作物直接支払い	300万円
●人材育成等ソフト事業	750万円	●自転車ツーリズム事業	510万円
●地域高校対策事業	1,500万円	●国際人材育成事業	260万円
●海外交流研修事業	830万円	●保育園料減額負担分	180万円

特別会計予算 10億490万円 (審議は一般会計と同様)

区 分	28年度当初予算	採 決	比 較	
			27年度	増 減
国民健康保険	4億4,550万円	可決 (全員賛成)	4億5,670万円	△1,120万円
国民健康保険 診療施設	9,200万円	可決 (全員賛成)	9,400万円	△200万円
簡易水道事業	2億5,510万円	可決 (全員賛成)	1億9,350万円	+6,160万円
公共下水道事業	9,760万円	可決 (全員賛成)	8,830万円	+930万円
農業集落排水事業	7,830万円	可決 (全員賛成)	7,490万円	+340万円
後期高齢者医療	3,640万円	可決 (全員賛成)	3,430万円	+210万円
計	10億490万円		9億4,170万円	+6,320万円

3月定例会 村長提出議案

議案は全て可決（全員賛成）、専決処分報告は報告のみ

件名	内容
損害賠償の和解並びに額を定めることの専決処分	凍結防止剤散布車のスリップ事故による和解
27年度 一般会計補正予算	3億1,400万円を減額、総額 54億5,700万円
27年度 国民健康保険 特別会計補正予算	290万円を減額、総額 4億4,360万円
27年度 国保診療施設 特別会計補正予算	500万円を減額、総額 9,000万円
27年度 簡易水道事業 特別会計補正予算	450万円を減額、総額 1億7,810万円
27年度 公共下水道事業 特別会計補正予算	90万円を減額、総額 8,740万円
27年度 農業集落排水事業 特別会計補正予算	100万円を減額、総額 7,730万円
村行政不服審査会条例の制定について	行政不服審査法改正に伴う条例の制定
村情報公開条例等の一部を改正する条例	〃 〃 改正
村課設置条例の一部を改正する条例	特産推進室の名称のまま、課に昇格する
議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	人事院勧告に伴う改正。期末手当0.05月アップ
村特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例	同上
村特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例	「専門の知識を有する特別職」の項を追加等
村一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	人事院勧告に伴う改正。若年層を優遇
村固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例	行政不服審査法改正に伴う改正等
村職員の旅費に関する条例の一部を改正する条例	近隣と同程度に引き下げ
村手数料徴収条例の一部を改正する条例	印鑑登録再交付手数料、行政不服審査法改正に伴う改正
村振興計画審議会条例の一部を改正する条例	地方自治法改正に伴う改正
村国民健康保険税条例の一部を改正する条例	国民健康法施行令の交付に伴う改正
村印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例	印鑑登録証の再交付（汚損・破損）を明記等文書表記の改正
村奨学金貸与基金条例の一部を改正する条例	奨学金返済の減免に「村内に居住・就労」等を追加
北アルプス広域連合規約の変更について	相談支援事業を広域連合から大町市に移管
〃 ふるさと市町村圏基金の一部処分	基金を一部取り崩し、福社会館を耐震化
北アルプス連携自立圏形成に係る連携協約	大北の各町村が大町市と連携協約を締結
伊折農山村体験交流施設の指定管理者の指定	指定管理者：伊折農業生産組合 組合長 坂井昭十 期間：平成31年3月31日まで
村土地改良事業の経費の賦課減免、徴収の延期	事業：県中山間整備事業伊折上工区。平成30年3月31日
売買契約の締結について	戸石・長崎・馬越の村営住宅購入。金額：2億9,899万円 契約の相手：長野県住宅供給公社
村第5次総合計画後期計画の基本構想の策定	前期計画に対して、2次交通の確保・下水道事業の公営企業化・空き家の利活用等を追加
村過疎地域自立促進計画の策定	28年から32年の過疎法適用計画

2月15日 臨時議会

件名	内容	議決結果
27年度 一般会計補正予算（6号）	2,180万円を追加し総額57億7,100万円。 サンテイン改修、白馬高校寮負担金等	可決 (全員賛成)
工事請負契約の締結（伊折地区水路復旧工事）	27年度（26災）耕地災害復旧事業 伊折地区 水路 復旧工事 金額：5億7,834万円 契約相手：株式会社 鷺澤建設	可決 (全員賛成)
工事変更請負契約の締結（村道梨平線道路復旧工事）	変更増加額47万5,200円。総額：5,469万1,200円。 契約相手：株式会社 鷺澤建設	可決 (全員賛成)
工事変更請負契約の締結（村道坪の沢入線道路復旧工事）	変更額 △853万2,000円。総額：6億134万4,000円。 契約相手：株式会社 松田建設	可決 (全員賛成)

請願・陳情

付託委員会	件名	提出者	審議結果
総務委員会	軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの周知と予防、その危険性や予後の相談の出来る窓口などの設置を求める陳情	軽度外傷性脳損傷仲間の会 代表 藤本久美子	採択 (全員賛成)
総務委員会	未来の有権者のための、模擬投票所設置に関する陳情	Kids Voting Japan 代 長 寒川 友貴	不採択 (賛成多数)
経済委員会	国土交通省告示第15号の履行に関する陳情書	一般社団法人 長野県建築士 事務所協会	採択 (全員賛成)
経済委員会	最低制限価格の設定に関する陳情書	会 長 池田 修平 一般社団法人 長野県建築士 事務所協会大北支部	採択 (全員賛成)
経済委員会	耐震診断・耐震改修に関する陳情書	支部長 吉川 馨	採択 (全員賛成)
経済委員会	姫川上流漁業協同組合に対する指導事業補助金の増額に関する陳情書	姫川上流漁業協同組合 組合長 滝沢 渉	一部採択 (全員賛成)
経済委員会	除雪作業に関する陳情書	小谷村建設業組合 組合長 山原 登	継続審議 (全員賛成)

議員発議

意見書は各関係機関に送付した

件名	採択結果
軽度外傷性脳損傷・脳しんとうの対応に関する意見書 1 教育機関、スポーツ指導者等への周知徹底および対策を講じること。 2 専門医による診断と適切な検査を実施する体制の構築を進めること。 3 周知・啓発・予防措置の推進と相談体制の確立を推進すること。 4 園・学校内で発生した重篤事故の繰り返しを防止するための対策を講じること。	可決 (全員賛成)

委員会活動報告

総務委員会

白馬山麓施設組合定例議会

2月24日（白馬村）

広域連合新ごみ処理施設稼動に向け、山麓施設の維持整備経費は必要最低限にとどめ、今年度は焼却炉耐火物打ち替の経費計上がされた。27年度補正予算・28年度一般会計予算が議決された。

生ごみ堆肥化でごみ減量

下里瀬と梅池地区の

取り組み 3月11日

平成16年に、住民課と住民グループが協働で堆肥化管理技術を研究した。木枠に籾殻と生ごみをサンドイッチ状に積み重ねる処理方法である。

この実践に参画した下里瀬地区の皆さんが集落内に手作りの堆肥化棟を設置し、

経済委員会

新年村内視察

1月5日（小谷村）

自力運営して10年になる。家庭ごみを持ち込む住民の方にお聞きした。経費がかからない、処理能力が高く簡単。3カ月寝かすと良質な有機堆肥が出来上がり、毎年畑作りが楽しみとのことである。



利用をそば殻もみ、堆肥化施設いい匂いだな～発酵菌は！

梅池高原でもエコ観光を

アピールしようとNPO法人がそば殻を使った堆肥化の取り組みをしている。大幅なごみの減量と処理経費節減に効果大だが、観光地独特の課題が多く、事業効果をあげるために苦慮しているとのこと。両施設で7t以上の処理がされている。

（委員長 小池利治）

経済委員会

新年村内視察

1月5日（小谷村）

暖冬の新年早々村長同行。3スキー場・スキー学校・砂防・商工会・道の駅・宿泊施設等の状況視察および事業者との意見交換をする。

27年度先進地視察

2月1日（飯島町）

大北農業推進協議会の構成員が参加し、新品目の産地化等の事例を学ぶ。

飯島町の田切農園、駒ヶ根市のバイキングレストラン「茶々ちゃん」の視察。

大北地区農業パワーアップ

研修会

2月12日（大町市）

「北アルプス山麓の恵みを生かした農業・農村の振興」をキャッチフレーズに農業と観光の連携促進を強化するための研修会。

管内優良団体の部で「小



小谷村ドレッシング

谷村野豚生産組合」が表彰され、北アルプス山麓ブランドに、ドレッシング「小谷の四季」が、新規認定品となり、認定書を授与する。



認定書を授与

美麻ジビエ処理工場視察

3月11日（大町市）

処理工場の立ち上げから現状についてお聞きし、工場設備などを視察。製品化されたジビエ肉を提供している農園レストラン「ラビット」の運営に関する研修をする。

（委員長 横澤かつ子）

議員定数等調査特別委員会

第11回特別委員会 3月14日

▼討議決定事項

議員定数をはじめ、議会のあり方等について広範囲に、討議した。

議員定数について、4月初旬にアンケートを実施し、村民の皆様方からのご意見をいただくこととした。

第12回特別委員会 3月28日

▼討議決定事項

アンケートの方法・内容について協議した。

アンケートはご意見をいただく方を無作為抽出法で選出し、書面で依頼し応募いただく方法と、村のホームページを活用し応募いただく方法の2つとした。書面で依頼する方を無作為抽出法で選出した。

（委員長 太田武彦）

村政を問う

28年3月定例会一般質問

【一般質問は、定例議会において質問通告書を提出し、執行機関に疑問点や所信を問います。】

〈質問項目〉（質問順）

- | | |
|------------|--|
| 1、曾根原恵子 議員 | ①介護予防と日常生活支援の取り組み……………(8ページ)
②総合戦略と村の未来、28年度の重点施策
③「子育て支援策」効果的な発信を |
| 2、藤原 賢司 議員 | ①創生人口ビジョン・総合戦略小谷版について……………(9ページ)
②潜在的な魅力ある観光について |
| 3、猪股 充拓 議員 | ①暖冬時の観光地対策について…………… (10ページ)
②企業誘致による雇用の拡大と人口増加策 |
| 4、高橋 正宏 議員 | ①第5次総合計画（後期）について…………… (11ページ)
②全国棚田サミットについて |
| 5、宮澤 正廣 議員 | ①地域社会の中で高齢者が元気で暮らせる村づくりを…………… (12ページ) |
| 6、太田 武彦 議員 | ①小谷型小さな拠点づくりの推進について…………… (13ページ)
②新幹線を活用した振興策について
③白馬高校に対する支援について |

【一般質問のページは、質問議員が各自で作成をしています。】

「検討する」の回答はどうなったか？

【質問に「検討する」とした回答が1年後に再回答されます。】

〈質 問〉

[27年3月]

- 空き家の家財道具処分の対策は。
- 雪中野菜やウドの支援策の検討。
- 小規模な雪室を検討する考えは。
- 第3子、3才未満児の保育料無料化、妊婦の歯科検診補助を。
- 復興住宅は高齢者、独居者に配慮を。
- 雪中キャベツ等の反響は。
- ふるさと納税を観光や移住者の拡大に。

〈再 回 答〉

[28年3月]

- ◆ 小谷村空き家財道具処分補助金交付要綱を策定。空き家バンクに登録し、入居の決まった物件に補助。
- ◆ 27年に雪中キャベツを、28年はウドを交付金対象とする。
- ◆ 特産室で試験をしたが良くなかったので、予定しない。
- ◆ 3才未満児を除き第2子は半額、第3子以降は無料化する。歯科検診は細部を調整中。
- ◆ 稲葉を除いて4月上旬から入居可能。7年間減免措置をする。
- ◆ 都市部での知名度上昇。規格外品の加工を検討中。増やしたい。
- ◆ ネット登録、クレジット決済、モンベルとの提携により、認知度アップ。観光客や地場産業振興を推進する。

介護予防と

日常生活支援の充実



曾根原恵子 議員

地域ケアの拡充を

問 村の独自性を生かす地域包括ケアシステムをどのように創るか、方策に苦慮することは何か。

答 村長 住み慣れた家で暮らし続けるため、医療・介護サービスと、地域の多様な関係、ネットワーク化が必要だ。

「小谷流」のシステム構築には、社会資源を最大限に生かすこと。必要とされるサービスを継続的雇用に結びつけることが課題となる。

問 要支援者の訪問介護と通所介護が保険給

付からはずされ、村の事業に移行する。利用者や家族への影響があるのでは。

答 村長 制度改正で村に移行するサービス

については関係事業者と検討中だ。軽度者へのサービス緩和があるが、利用者・家族への影響は最少限にとどまると考える。

介護報酬大幅引き下げで 運営と職員が危機に

問 「地域ケア」の根底を支えている介護事業所の経営実態を把握しているか。運営が不安定で介護従事者の給料体制は深刻な状況にある。育成・確保・処遇改善の課題解決を求め。

答 村長 昨年、制度改正で介護報酬単価が減額され、運営に大きな影

響があったと認識しているが、人件費等の^(注)「処遇改善加算」もあり経営に一定の配慮がなされている。村としては事業委託等、今後も安定的な経営支援体制の検討をする。介護従事者育成では3万円を限度の補助制度を実施している。

総合戦略の重点施策

問 「小さな拠点」構想の具体的な取り組みは何か。

答 村長 福祉分野と採算部門（移送サービス等）を結びつけて人と仕事の循環関係をつくる。地方創生交付金事業だが、村の持続に必要な事業は独自予算を持つても対応する。

問 加工・貯蔵施設整備事業の概要と財源は。

答 村長 平成30年に整備予定で、事業主体は村。財源は国の補助事業を考えている。運営体制は村直営で。会社組織、指定管理者制などを検討中だ

が、施設利用と運営には多くの方が参画し、全村あげた取り組みが必要だ。

問 「地域支援コーディネート」の目的は定住策だが、「ひとの流れを創る」主役は村民だ。村の課題を共有し、地域間交流も必要となる。公民館を「学び」の場に。

答 村長 「お試し移住」から「定住」へつなげるには地域コミュニティ維持が大事だ。公民館とも連携して村民に提案していく。

問 「子育て支援策」効果的な発信を

答 村長 「定住」に結びつく移住ガイドブックを作成中だ。若い世代を含め村民の意見を取り入れた情報発信に努める。

問 村の子育て支援策をまとめたパンフ等の作成を若い世代と協働で。内外に効果的な発信が必要だ。

答 村長 「定住」に結びつく移住ガイドブックを作成中だ。若い世代を含め村民の意見を取り入れた情報発信に努める。

問 「小さくとも輝く自治体フォーラム」に加盟し、小さいからこそ輝ける村としての発信を。

答 村長 地方を守る小規模自治体の必要性を訴えるためにもフォーラムの会に加入し、小さい村だからこそできる実践を学び、発信していきたいと考えている。



わさびの会
クロスワードは真剣に!

(注) 処遇改善加算

介護制度改定で報酬4・4%の引き下げと介護職員処遇改善等の加算が追加。加算請求には要件があり、小規模事業所では習得が困難。

創生人口ビジョン・ 総合戦略小谷版について



藤原 賢司 議員

問 2040年の総人口1602人とする推

計数値を直視した場合、小谷村の人口の現状と将来の人口推計をどう考えるか。

答 村長 小谷村が独自で推計した2040年の総人口は2256人、

「小谷村総合戦略」に掲げた戦略事業を、村民の皆様とともに実行していくことで、小谷村独自の人口推計値を上回るよう努力したい。

問 日本創成会議の推計20〜39歳の女性人口の予想減少率は77・9%と示されたが、小谷村の人口

減少、出生率低下をくい止める村長としての方策は。

答 村長 小谷村総合戦略4つの基本目標・

「地域資源を活用した雇用の創出」、「新しいひとの流れの創出」、「結婚・出産・子育ての希望がかなう環境の創出」、「魅力ある安心で持続可能な村づくり」について、それぞれ個別に設定した成果目標を達成し出生率低下を食い止めたい。

問 人口減少問題は、他市町村との合併も検討課題となつてくると思うが、村長の見解は。

答 村長 多くの住民の意識が合併に傾いた

場合や、人口が急激に減少する事態に至った場合は、住民サービスや財政、行政効率の面からは合併すべき

と考えるが、この場合はどここの市町村と合併するにしても、当時小谷村が目指した対等合併ではなく、吸収合併も致し方ないと思う。

潜在的な魅力ある 観光について

問 小谷村を宿泊拠点とした広域観光ルートの確立が必要。民泊が脚光を浴びる中で、指定管理者制度を活用し廃屋を利用した民泊の推奨は。

答 村長 整備費も多額であるし、村内の宿泊施設と競合することになるので、村が整備し、指定管理者の指定等を進める考えはない。

問 小谷村を宿泊拠点とした広域観光ルートの確立が必要。民泊が脚光を浴びる中で、指定管理者制度を活用し廃屋を利用した民泊の推奨は。

答 村長 整備費も多額であるし、村内の宿泊施設と競合することになるので、村が整備し、指定管理者の指定等を進める考えはない。



スキー場
Ski resort

問 塩の道の何か所かに自然石の石段を造り、ぬかるみには転石を並べるなどして、小谷村（塩の道）の潜在的な魅力の掘り起こしや、魅力づくりを行うべきと思うが村長の考えは。

答 村長 基本的には塩の道の整備の中で対応していく。観光資源である塩の道ルートには、生活と密着している個所も多いので、現場に併せて最良の方法で対応していきたい。

問 森林セラピー基地認定を主に、塩の道などセラピーロードをセットにした観光、民泊も含め小谷村の観光ブランドを作り上げることの必要性について村長の考えは。

答 村長 平成27年度は、コルチナウッドチップロードでの早朝セラピー、鎌池周辺で静岡県教職員互助組合、神戸学院大学の教師、生徒を、白馬

の道の何か所かに自然石の石段を造り、ぬかるみには転石を並べるなどして、小谷村（塩の道）の潜在的な魅力の掘り起こしや、魅力づくりを行うべきと思うが村長の考えは。

村の宿泊施設で企画した提携会社の福利厚生ツアーを塩の道で受け入れており、集客数は164名と全体数としてはまだ少人数であるが、インストラクター協会とさらに連携を深め、集客に努めていきたい。

また、「小谷村ブランド」の必要性については、塩の道や鎌池遊歩道、榎池自然園遊歩道、チップロードなど、小谷村が持っている「多彩な遊歩道」や「自然環境」をアピールしながら、推進していきたい。

問 初めて小谷村を訪れた方が安心して各種施設やスポットを訪れていただくために、それぞれの施設等に誘導できる「ピクトグラム（絵文字看板）」を随所に設置するなどの工夫も必要ではないか。

答 担当課長 検討したい。

ピクトグラム（絵文字看板・案）

第5次総合計画（後期）

について



高橋 正宏 議員

問

移住お試しし住宅や、短期滞在型施設等は、地元住民とのふれあいが、かなり重要になると思われるが、その人材の確保や養成、利用内容の構想は。

答

村長 移住お試しし住宅は深原の、短期滞在施設は、土倉の空き家を活用したい。

それぞれの地域住民で、「地元案内人」を務めていただき、風習や暮らし方などを伝え、地区の行事への参加などで、地元との絆を深めていただきたい。

利用内容の設定は、先進的な事例を参考に検討中。

一般質問

交流や移住者の増加を目的とする施設であるため、既存観光宿泊施設との関連を踏まえ、検討を重ねる。

問

このような施設を今後増やす予定は。

答

村長 実施した状況で判断する。

問

自主防災組織づくりは、「住民支え合いマップ」と密接な関係があり、個人情報との整合性や、少人数集落の高齢者・障がい者の対応とはどうするか。

答

村長 住民支え合いマップは、地域住民主体で、要援護者との関わりを、住民同士で話し合い、作成するもの。お互いの合意で成り立つシステム。

情報はあくまで、ご近所で助け合いを進めるための

ものであり、ご近所以外には出さないのが基本。

問

消防団員の居ない集落の対応は。

答

村長 検討が進んでいない、団の広域化や構成も合わせて検討する。

問

行政の広報・広聴にもう少しきめ細やかな工夫が必要と思われるが考えは。

答

村長 人口ビジョン・総合戦略・総合計画は、新年度早々に、地区担当職員からの、説明を予定している。

また、検証結果は公表し、皆様のご意見も伺い、総合戦略を充実する。

取り組みは、住民の皆様と共に進めることが重要であり、ご協力をお願いする。

全国棚田サミットについて

問

①平成30年に小谷村で開催する全国棚田サミットの主要テーマ、目

的、狙いは何か。

②小谷村としての今後の準備予定は。

③担当部署への人員配置の考え方は。

④良い機会なので、棚田オーナー制度の発展は。

答

村長 小谷の水田のほとんどが「棚田」であり、サミットの開催は、年々荒廃が進む村内の農地の良さや役割を見つめ直すには良い機会。



田植えをするオーナー

る頃合い。

何より小谷村合併60周年を迎える年にもなる。その記念事業の一環としても、サミット開催を受けた。

テーマや内容については、今後決定していく。

28年の7月には佐渡市で全国棚田サミットが開催され、視察を予定している。

早期に実行委員会が準備委員会をたちあげる。

視察団の人選やサミットの内容検討など、準備を進めたい。

また、必要に応じた人員配置は考えている。

棚田オーナー制度についても、「おたりの輪」と相互に情報をつなげ、それぞれの参加者の増加や利便性の向上を目指していきたい。

問

他県のサミットでは、県の関与があったが、村として県への応援依頼は。

答

観光振興課長 今後対応を検討する。

平成30年度は、白馬乗鞍・元廻のほ場整備や、伊折の水路トンネルも完成を迎え

地域社会の中で高齢者が 元気で暮らせる村づくり



宮澤 正廣 議員

問 これからの小谷村に必要な支援は何か。

答 村長 現在『地域ケア会議』を開催し、

問 要支援の方が要介護にならないためのサポートサービス等の内容(対策)は。

答 村長 地域の中で活動性の高い、当たり前の生活を送ることが、何よりの介護予防といわれている。人と会って話をすることが認知症予防に繋がります。たとえば要支援・要介護であっても誰かの役に立ちたいと思えば、それを実現することが要介護状態への悪化を防ぐこととなる。

問 今後介護の資格取得、講習会等に対する補助をすることは可能か。

答 村長 現在、資格取得に對する補助としては『小谷村ホームヘルパー養成研修受講料補助金交付要綱』を平成24年に定めている。対象経費の3万円以内を補助できる制度があるので活用していただきたい。改めて周知についても努めていきたい。

答 村長 村内に介護保険事業所は2事業所(小谷村社協)(NPO法人(小谷村社協)があり、共に『居宅介護支援(ケアマネージャー事業所)』『ヘルパー事業所』『デイサービス』を運営している。また、地域包括ケアシステム構築に向け重要な『生活支援』についてごみは『買い物サービス』『配食サービス』他にも賛助会員向けのサービスを提供しており、社協においても『生活支援員派遣事業、要介護前の人でも利用できる生活支援』『福祉輸送サービス』等を行っている。

問 現状の支援ネットワークはどのようになっているか。

答 村長 2カ月に1回『地域ケア会議』を開催し、顔の見える関係づくりに繋がっている。

でもなく、『地域づくり』と言われているもの。地域によっては伝統的な行事を継承し、住民それぞれが役割を持って集い、役割を果たすことによって、十分に社会参加ができている。それを続けていくこと、要支援・要介護になっても役割を持って参加することが何より大切なことと考えている。

地域包括支援センターでは、住民の皆様の声をお聞きするため、積極的に地域の集まりに出かけていく予定なので、ご意見をお聞かせいただきたい。

問 地域における適切なサービスを提供できる機関、または対策は。

介護予防については要介護前でも利用できる『生きがいデイサービス』を2事業所とも開催している。

総合事業では『サービスづくり』でも『制度づくり』



健茶会で元気、元気

小谷型小さな拠点づくりの推進について



太田 武彦 議員

新幹線を活用した振興策について

ば、行政との連携等もより効率的、効果的となり課題解決も容易となると思うがどうか。

答 村長 「地域を知り」、「多くの参加を得て」、「自分たちの計画をつくる」の作業過程を経て計画を策定することにより、行政との連携等もより効率的、効果的となり地域の課題解決に結びつき、地域が今後どうするべきか、どうあるべきかが必然的にわかってくるので、この計画の支援を考える。考えている支援としては「村づくり補助金」制度だが、この制度も創設後13年が経過しており、制度の見直しをする時期と考

問 周辺市町村、村独自で行っている施策（大系線の振興策も含めて）の現状と今後について。

答 村長 新幹線の開業から半年の乗車人員は416人となっている。また、大系線については数値の公表はないが、外国人観光客を中心に20〜30パーセント増加しているとのことだ。「北アルプス・日本海広域観光連携会議」では、糸魚川駅の利用促進と、大系線への誘導取り組みとして、10月〜12月までの間、レンタカー乗り捨て料金の補助、大町・白馬・小谷・JR西日本では、12月〜3月までの週末、近畿日本ツーリスト・日本旅行などが平日大町駅糸魚川駅間のシャトルバスを運行している。

川駅の利用促進と沿線誘導の強化に努めていく。また、関西圏からの誘客強化のため、観光連盟では、各市町村観光連盟等と連携し「JR西日本スノーリゾート受入観光地協議会（仮称）」の設立を目指している。

白馬高校に対する支援について

問 支援の目的、現状と今後について。

答 村長 平成26年度に高校再編基準を2年連続で下回り、統合・募集停止・キャンパス化のいずれかを選択することを余儀なくされた。白馬小谷の両村の行政・議会・教育関係者・PTA・有識者で「白馬高校の将来を考える会」を立ち上げ、全国募集の観光学科を新設し、英語力アップと観光教育実施を目指し、寮の整備と全国募集・TT授業・ICT教育機器の整備・公営塾の設置・観光分野へのデュアルシステム・クラブ活動への支援等を白馬・小谷両村が行い、大学進学率と就職率の向上を目指す旨の提案を県教委に提出し、認められ存続が決定した。

このことは、将来も観光産業が主要な産業である白馬・小谷両村を考えると、特に英語に力を入れることで、有名私立大学進学も可能となり、観光産業発展につながるかと考えるからだ。現在、寮については取得手続中。公営塾（しろうま塾）については、講師は3名体制で、塾には16名の生徒から申し込みを受け、運営している。ICT機器は電子黒板2台、タブレット端末40台を3月中に整備する。観光分野のデュアルシステムとして、8社の企業から申し込みを受けている。クラブ活動支援については、指導体制も28年度から対応できることとなった。今後

問 具体的な小さな拠点づくりの推進と指導、支援体制はできないか。

答 村長 自主的な活動や地域ぐるみの取り組みに対しては、国、県の補助制度の活用や村づくり補助金を活用し、必要に応じては「村づくり補助金の拡充」も検討する。地域づくり応援団に、地域づくりコーディネーターとしての役割、支援の立場で活動してもらおう。なお、地域の要望により新たな地域への応援団設置も可能である。

問 地域活動が拠点中心に行えることとなれ

ビジョン策定から実施までの2〜3年の範囲の複数年度利用できる制度を新年度

今後関係市町村・関係団体との連携により、糸魚

光分野へのデュアルシステム

引き続き行っていく。

わたしのひまわり

昔からの習慣

太田 猪又 由香

私は介護の仕事をはじめ、いろんな方から昔の話聞かせていただきます。小谷には多くの習慣があることを知りました。小谷に生まれ育った私ですが、昔からの習慣の知らないことの多さに驚きました。習慣はさまざまで、例えば「3月15日」、この日は、お釈迦様の命日で、各家庭でやしようまを作ったり、昔はお寺でやしようまをまき、それを貰ってきて山へ行くのに布の袋に入れて腰に下げているとマムシに噛まれないと言われていたそうです。

他にもお庚申様の日には、その年の農作業の順調や豊作を願う庚申塔にお供えをする習慣もあります。

また、地域ごとの習慣

に違いがあり、話を聞いていると本当に勉強になります。こんなふうに昔からの習慣を今もなお続けているということは、素晴らしいことだと思います。しかし、それが段々薄れてきてしまっているのが現状なのではないでしょうか。



伝統家庭料理「やしようま」

昔からの習慣の意味を知ることが、物事への感謝やありがたみを考え直すきっかけになりました。これからも、大先輩方からもっといろいろなことを教えていただけたらと思います。

「好き」と「上手」の違い

下寺 横澤 美界

小さいころから絵を描くことが好きだ。上手とか下手とかは抜きでとにかく好きだ。学校から帰って宿題を終わらせるとどんな日もひたすら絵をかく毎日であり、それくらい好きだった。

高校を卒業して、新潟県の漫画の専門学校に入学するが、他の人たちは私の何倍も何十倍も絵が上手な人ばかり。悔しい気持ちが生まれ、上手になろうと毎日必死に絵をかき続けたが、その内だんだん絵を描くことが辛くなっていた。そんなある日市内で毎年行われているお祭りでは似顔絵を描くイベントに参加した。私が描いた似顔絵をもらったお客さんが喜んでくれるとちょっとだけ嬉しくなる。5、6歳くらいの子の似顔絵を描いていたとき、私はその女の子にある

一言を言われた。

「絵を描くのは好きですか？」私はその質問にうまく答えられなかった。昔はあんなに描くことが好きだった絵が、だんだん嫌いになりそうだったからだ。絵をうまくなることに必死で描くことの楽しさを失っていたんだ。



道の駅「おたり」で

「好きこそもの上手なれ」という言葉があるが、「好き」という気持ちがあるからこそ、それが上手になるんじゃないかと思う。今も私は絵を描き続けている。夢中になって描き続けたいた時の「好き」という気持ちを忘れずに。

編集後記

小雪の舞う小谷村らしい天候の3月24日、復興の象徴でもある震災復興村営住宅の竣工式が行われました。国・県・村などさまざまな皆さんのご協力をいただき、小谷村の気候や環境に考慮した小谷村らしい住宅です。入居されるみなさんが、少しでも震災前の生活に近い笑顔あふれる生活に戻れるよう願うばかりです。

3月定例会において災害復興予算も含め新年度一般会計予算を議決しました。村民のみなさんの要求にだけだけ応えていけるのか、議会と行政が共に考え進んでいきたいと思えます。

また、議会だよりが村民の皆さんに、より気軽にわかりやすく、有益な情報源になれるよう。今後のご意見ご要望などありましたら宜しくお願いたします。

(猪股充弘記)